

# 令和5年度第1回経営アドバイザー会議議事録

作成日：令和5年12月9日

開催日時	令和5年10月18日（水） 午前11時から正午まで
開催場所	千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館 集会室
出席者内訳	<p>高木博彦 委員</p> <p>福本朋子 委員</p> <p>豊田佳伸 委員</p> <p>山田篤 委員</p> <p>小林すみ子 委員</p> <p>房総のむら：岩崎館長・大森副館長・安藤管理課長・鎌形事業課長 財団高梨事業企画課長</p>
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度上半期までの事業について</li> <li>・運営についての意見交換</li> <li>・その他</li> </ul>
質問、意見、 要望等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 常に房総のむららしいバラエティーに富んだ事業をやっており、入館者数に一喜一憂することはないと思う。</li> <li>② 収蔵庫の耐震対策は、長い目で見ると博物館の重要な業務と思うので、引き続き工夫して実施して欲しい。</li> <li>③ 資料館は地域を前面に出した展示になった。館内はリニューアル以前と比べ明るくなり感動した。</li> <li>④ 「行商展」は、駅で行商の方々の様子を目にしていたので、大変面白く見学した。</li> <li>⑤ 外国人の入館については、テレビに出るなどきっかけがあればSNSで発信し、外国の方にも知っていただけたらと思う。</li> <li>⑥ 資料館の説明は細かな文字と長い解説文になっており、小学生には難しいのではないかと。小学生向きに易しく書いたものを用意するなど検討が必要である。</li> <li>⑦ これからの博物館は、時代に合わせて変化する必要があると思う。 房総のむらの使命である「房総の伝統的な技術の公開と保存」を基本としつつ、その時代の来館者ニーズにどのように応えていくのかが課題となると思う。</li> </ol>

<p>質問、意見、 要望等</p>	<p>⑧ 房総のむらの強みは本物の職人さんが実演していることであり、外国人の方は、その職人さんと直接話をしたいという要望を持っている。 外国人の方の要望に応えられれば、体験をした方がその情報をSNSで発信し、より多くの外国人の方の来館が見込まれると思う。 また、成田空港㈱と連携し、空港内での簡易な体験をするのも外国人の方への広報として、有効な手段ではないか。</p> <p>⑨ ベトナム・タイの方の入国は増えているが、中国からの入国者数はコロナ禍前と比べ3分の1程度であり、入国者数の回復は今後も不透明な状況である。空港周辺のホテルと房総のむらの職員が同行し、いろいろな事業所などへ房総のむらの紹介に出向くのもよいのではないか。</p> <p>⑩ 房総のむらは、地元の小学生にとって自分で興味を持ったことをすぐに調べに行けるととても良い施設である。リニューアルした資料館は明るくなり、新しい資料も増えたので、小学生高学年にも分かりやすいパネル展示をしたら良い。</p> <p>⑪ 資料館の説明は小学生には難しいので、音声でのガイダンスがあると良い。</p>
<p>むらにおける 対応、回答</p>	<p>① 房総のむらからの情報発信については、SNS等を活用しているが、近々、写真でより分かりやすい広報をするために、インスタグラムを始める予定である。</p> <p>② 来年度の演目を検討するに当たり、基本的に江戸後期から明治初期の建物や環境を含め、基本コンセプトをしっかりと認識したうえで、もう少し新しい時代の演目も取り入れようと検討している。</p> <p>③ 資料館の展示については、小学生でも分かりやすい説明が必要と認識しており、学校の先生方とも相談して作っていきたいと考えている。</p>